

マッカーサーと戦後レジーム

—GHQの宗教政策—

(日大総研大学院(院)) ○岡崎 匡史 (日大生産工) 森山 茂

はじめに

日本は太平洋戦争での敗戦を経て、GHQの占領期に政治的変革（レジームチェンジ）を経験した。

天皇ヒロヒトに代わる、新たな日本の最高指導者、マッカーサー元帥は悪の根源である神道を破壊し、キリスト教を日本に植え付けることを企んだ。

しかし、日本人はキリスト教を受け入れることはしなかった。なぜ、日本にキリスト教が移植されなかったという観点から、明治政府の国家神道のあり方を検証しつつ、マッカーサーとGHQの宗教政策を再考する。

I. 敗戦

力尽きた大日本帝国は、日本帝国軍の武装解除をはじめとする、「降伏文書」に1945(昭和20)年9月2日午前9時4分、ミズーリ号船上で日本首席全権・重光葵が暗殺未遂事件により失った右足を庇いながら調印した。老いた彼の姿は敗戦の日本を投影していた。

1. ポツダム宣言
2. 玉音放送
3. 日本降伏

II. ダグラス・マッカーサー (Douglas MacArthur)

マッカーサーにとって、日本との戦争の勝利とはキリスト教の勝利であり、日本人は性格改善の対象であり、崇高なキリスト教を基盤とした西洋文明に変えなくてはならないという福音の義務感があった。

また、日本のキリスト教を育成することを公然と支持して、日本の古来の宗教に対して否定的な態度をとった。占領の裏側にはキリスト教が張り付いていたのである。

1. ミズーリ号での演説
2. マッカーサーの権力
3. 日本占領
4. 日本キリスト教国化への熱意

III. 神話

どのような国家にも「神話」がある。「国生み」には神話を欠くことができない。たとえ神話が擬制（フィクション）だとしても、その共同幻想の元に国家が形成されてゆく。擬制は社会のいたるところにある。人間社会は擬制の上に成り立っていると云っても過言ではない。

1. 擬制（フィクション）について
2. ウィリアム・シェイクスピア
(William Shakespeare)
3. ベネディクト・アンダーソン
(Benedict Anderson)
神話、シンボル、ナショナリズム
4. T・フジタニ
政治儀式・儀礼、歴史の共有、
アイデンティティ
5. ジャン・ボードリヤール
(Jean Baudrillard)
記号
6. 丸山真男
明治政府：人為的、作為的国家

IV. 精神革命

近代国家の歩みとともに、明治政府は「権威」を天皇に求め、皇祖皇宗からなる歴代天皇の権威を「神話」として明治政府は完成させた。

敗戦後の日本は、「機軸」が崩壊した。明治政府が実施したように、GHQも新たな「機軸」を構築し植えつけようとした。日本人に対して新たな精神的教育を施そうとしたのである。

戦争によって日本人の精神は「空白」である

MacArthur and Japan's Postwar Regime
—GHQ's Religious Policies toward Occupied Japan—

Masafumi OKAZAKI and Shigeru MORIYAMA

として、その「空白」をキリスト教で満たそうとした。日本はまさに新たな実験場と化したのである。

1. 「機軸」崩壊
2. ジョン・ロック(John Locke)
タブラ・ラサ (tabula rasa)
→「白紙の状態」
3. 日本人の精神的「空白」
4. 宣教師
5. マッカーサーの宗教観
6. フィリピンでのモデル

V. 宗教政策

信教の自由は、「ポツダム宣言」、「米国の降伏後当初の対日政策」を基盤に確立された。

しかし、この「信教の自由」が後にマッカーサーの信念である日本のキリスト教化と矛盾をきたし破綻をもたらすことになる。

このような背景から、宗教を取り扱うGHQの機関、「民間情報局宗教課」の主な任務を考察し、日本に対する宗教政策を考察する。

1. ポツダム宣言
 - a. 第13項
 - b. 第10項
2. 米国の降伏後当初の対日政策
(United States Initial Post-Surrender Policy for Japan, September 6, 1945)
3. 信教の自由
4. 民間情報局宗教課の役割

VI. 政教分離

「祭政一致」の「祭」とは「まつり」であり宗教を意味し、「政」は「まつりごと」、つまり政治を指し示している。「祭政一致」とは宗教と政治が一体化・一元化しているということである。

現実の政治において、政治と宗教を完全に分離することは困難である。イスラム諸国をはじめとして世界中には「政教分離」をしていない国、すなわち「祭政一致」の国々がある。

政教分離という考えかたが、正しいという絶対的真理はないのである。

1. 政教分離理由
2. 宗教課の神道認識
 - a. 神道
 - b. 国家神道
2. 祭政一致
 - a. 井筒俊彦
3. 政教分離の形態
 - a. イギリス型
 - b. イタリア・ドイツ型

- c. アメリカ型
4. マッカーサーノート
 - a. 日本国憲法 — 「日本国民は、…」
 - b. アメリカ合衆国憲法 — “We the People of the United States...”
5. アメリカ合衆国修正憲法
(The Amendments to the Constitution of the United States of America)
 - a. 第1条
 - b. 第6条3項
6. 天皇の人間宣言
7. マッカーサーの返答

VII. キリスト教化運動

キリスト教を日本に布教させるためには、まず聖書が必要である。マッカーサーの要請によりポケット聖書連盟は日本語訳の聖書1千万冊を日本中の津々浦々に配布した。多くの日本人は喜んで聖書を受け取った。なぜなら、タバコの紙が高いため、その代わりに聖書の紙を破り、聖書の薄い紙で刻みタバコを巻いて吸うからだ。

また、キリスト教を大学で教えるために東京帝国大学にキリスト教の講座を設置することが提案された。しかし、結果的にはこの運動は失敗におわり、あらたに国際基督教大学を設置することになった。

1. ポケット聖書運動
2. 東大キリスト教講座設置運動
 - a. 文部省の反発
 - b. 財務省の反発
3. 神道指令
 - a. 自己矛盾
4. 国際基督教大学設立へ
 - a. 募金活動
 - b. ジョセフ・グルー(Joseph Grew)
全国委員長
 - c. マッカーサー
名誉会長に就任

おわりに

明治政府は天皇を中心とする国家を作りあげた。その中核をなす天皇をはずし、キリスト教を浸透させることが、あらたな日本を作りあげるというマッカーサーの理想だった。しかし、マッカーサーの期待は裏切られた。

日本のキリスト教信者数は戦前、戦後と比較してもほとんど変化を見せなかった。

1947年のGHQの調査によると35万2188人で、およそ全日本国民の0.5パーセント以下であった。